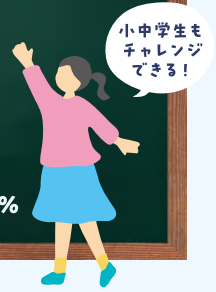
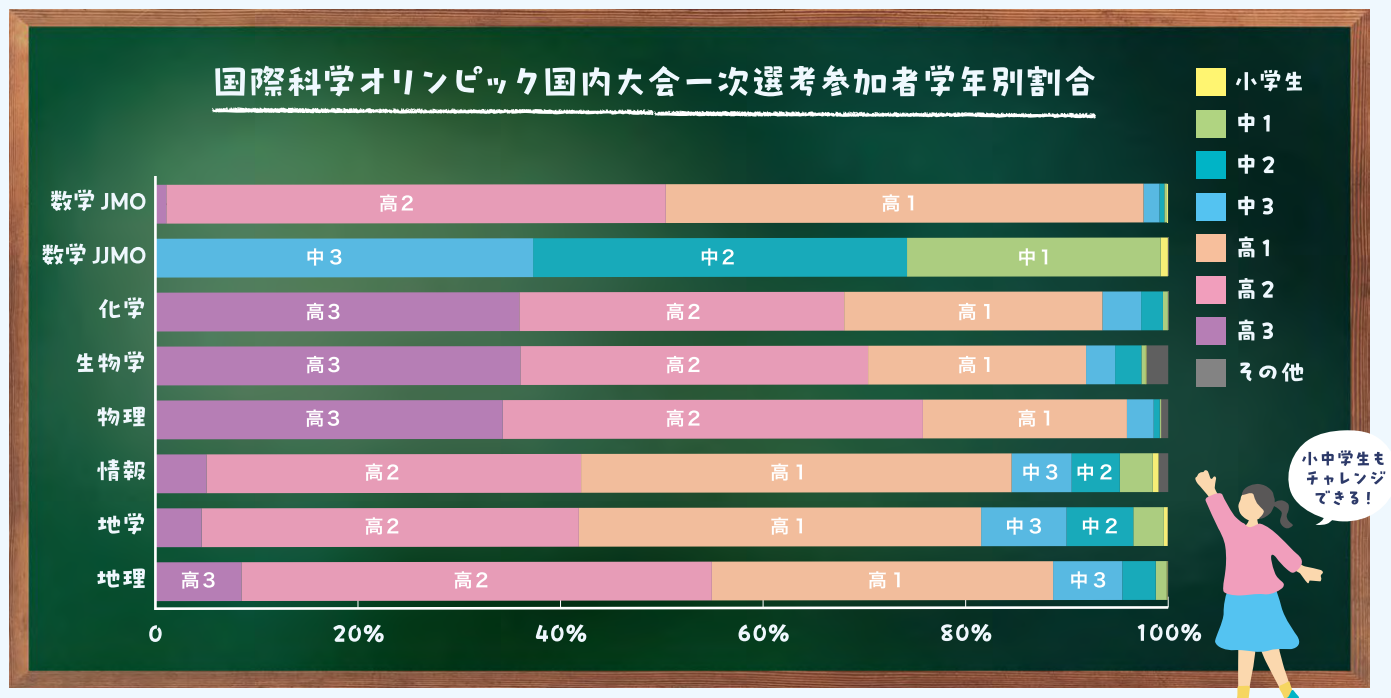


データで知る 国際科学オリンピック



世界の科学好きな高校生たちが一堂に集い、世界水準の科学に挑戦し交流を深める国際科学オリンピック。連載第2回は、国際大会に派遣する日本代表生徒選考を兼ねた国内大会一次選考参加者の学年別内訳をご紹介します。

これまで国際大会に出場した日本代表生徒は高校3年生が最も多く、彼らは高校2年生時に参加した国内大会で最も優れた成績を収めたこととなります。とはいえ、初めての挑戦で日本代表の座を射止めるのは至難の業。参加者の多くは、複数年かけて国内大会の出題内容や形式、範囲とともに自らの強みや弱点についての理解を深め、日本代表という一つの大きなゴールを目指して日々学習に取り組んでいます。



2024年国内大会一次選考参加者はのべ19,182名でした。全体で見るとやはり、高校2年生(34%)、高校1年生(31%)が約6割を占めますが、夏までに一次選考や本選が行われる化学・生物学・物理は高校3年生の参加者も少なくありません。日本代表候補の資格はありませんが、これまで取り組んできた学習の集大成として本選でよい成績を収めることができれば、**大学受験時に学習・課外活動等の成果の一つとしてアピールすることができます。**

一方、先取り学習として科学オリンピックに挑戦している小・中学生もいます。例えば、情報・地学・地理は、参加の**きっかけがゲームや天体・鉱物、旅などが「好き」だったからという児童・生徒も**。また、数学は小・中学生のみを対象としたジュニア数学オリンピック(JJMO)を実施しており、優れた成績を収めた児童・生徒には、メダルに加え本選や日本代表選考合宿への参加権利が与えられます。

一次選考は、自宅のパソコンから参加できるオンライン形式を採用していたり、無料で受験できたりと、小学生から高校生まで誰でも気軽に挑戦できる環境を用意しています。ぜひ、学びのポートフォリオとして科学オリンピックをうまく活用し、自身の「好き」や強みをさらに伸ばしてみませんか。



※本文中の「小学生」「中学生」「高校生」には、小学校、中学校、高等学校のほか、義務教育学校、中等教育学校、国際ナショナルスクール、高等専門学校などに在籍している同等学年相当の児童・生徒を含みます。